

1-3 病院 ERU のスタッフ構成

1. 日赤病院 ERU の構成スタッフ ※20 ベッドを想定

【病院 ERU 構成スタッフ内訳】

- ・ チームリーダー、副チームリーダー／安全管理担当 各1人
- ・ シニアメディカルオフィサー、ヘッドナース、管理要員リーダー、ロジスティクスリーダー、広報要員 各1人
- ・ 医師 8～11 人：外科医／整形外科医 3～4 人、内科医／小児科医 2～3 人、産婦人科医 1～2 人、麻酔科医（麻酔看護師）2 人
- ・ 看護師／助産師：28 人（看護師 19 人、手術室看護師 3 人、滅菌看護師 2 人、助産師 4 人）
- ・ 薬剤師 1 人
- ・ 放射線技師、検査技師、理学療法士 各1人
- ・ ロジスティックス要員 3 人
- ・ 管理要員 4 人
- ・ 技術要員 3 人：ME（臨床工学技士）を含む
- ・ 調理師 1 人
- ・ 精神保健・心理社会的支援（MHPSS）要員 1 人

また、状況に応じて、以下の業務を行うサポート要員の追加派遣も行う。

- ・ 初動ロジスティクスチーム
- ・ 追加技術要員（IT 機器のセットアップ、整地・給水・電気関連のセットアップ）
- ・ 外部技術協力者（整地・給水・電気関連のセットアップ）
- ・ 連絡調整員＊
- ・ 復興支援要員（早期復興支援のためのアセスメント、計画立案）

＊後方支援として、病院 ERU が被災地で活動する間、被災地への玄関口となる都市（中継都市）に連絡調整員を派遣する場合がある。

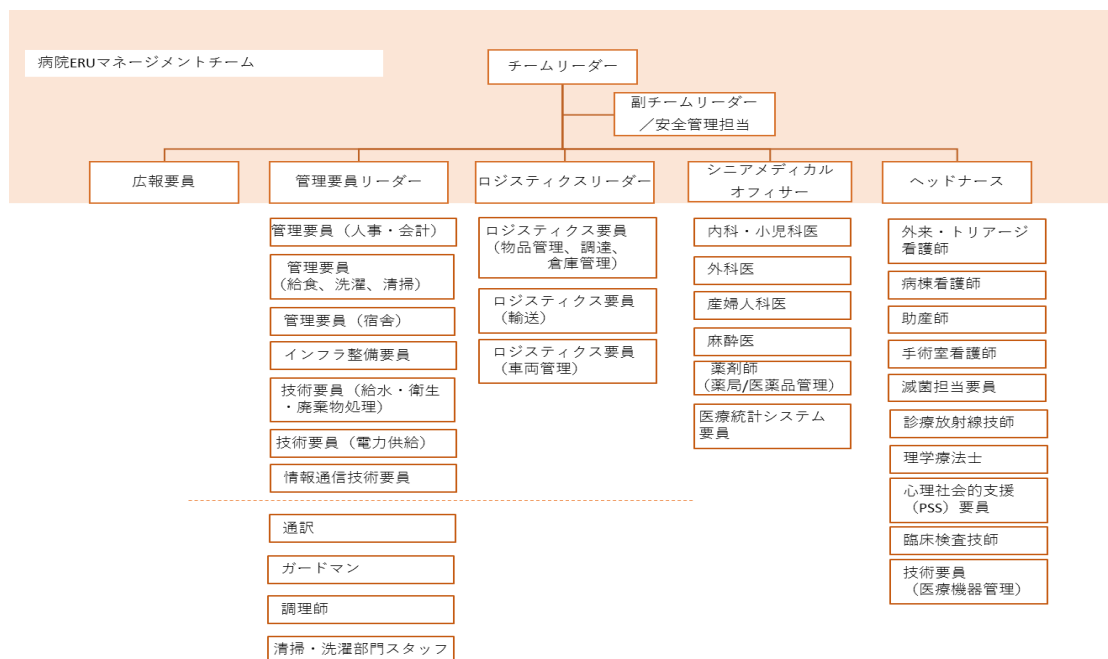


図1 病院 ERU の組織図

(1) インターナショナルスタッフ

病院 ERU チームにおける、各要員の役割は病院 ERU 要員の業務指示書 (ToR : Terms of Reference) 【PART8-1 ToR】を参照すること。

病院 ERU のチームリーダーは、連盟のチームリーダー研修を修了した者が配置される。要員は、原則として日赤本社・支部・施設または姉妹社から、ERU 研修を受講し、登録された者から選出される。医療要員には各分野における高い専門性が、技術・管理要員には ERU 運営にかかる幅広い知識と役割が求められるのは当然であるが、ERU の円滑な運営のためには、チームリーダーの指揮のもと、各自がその専門分野や業務の枠を超えて協力し合う姿勢が常に求められる。

インターナショナルスタッフの必要人数は、派遣国の人材のキャパシティによって異なる。派遣国の体制が堅固かつ多くの現地スタッフの協力確保が可能である場合、病院 ERU 構成メンバーのインターナショナルスタッフ数は最低限で活動できる。

① ジョイント派遣 (Joint Deployment)

アジア・大洋州地域には、医療・保健要員のリソースを多く抱える姉妹社が多数あり、オーストラリア、中国、香港、マレーシアなどの各社は連盟の ERU 活動への強い参加意欲を持っている。しかしながら、これらの姉妹社は ERU に必要な資機材の購入・保持、費用等を賄うことが困難な状況にある。よって、日赤はアジア・大洋州地域における唯一の ERU 保持社であり、同地域における災害対応のリーダー的役割を担うことを目指していることから、ERU 派遣に興味を持つ社からのスタッフを受け入れ、ジョイント派遣を行っている。

② ジョイント派遣要員の登録・派遣決定

日赤がジョイント派遣を受け入れる可能性のある社からは、毎年日本で開催している保健医療 ERU 研修への派遣候補者の参加を呼びかけており、特にオーストラリア・香港赤についてはこれまでに多くの要員がこの研修を修了している。病院 ERU が発動された際、派遣可能な要員の調整にあたり、日赤（本社国際部）から姉妹社への照会や、姉妹社からの推薦情報をもとに、日赤 ERU チーム構成に必要な人選が行われる。

(2) 現地スタッフ

病院 ERU の初動の時期にはより多くのインターナショナルスタッフが必要となるが、状況に応じてできる限り早い段階での現地スタッフへの業務移行が求められる。現地スタッフ採用等に関することは【PART5-11 4.人事管理】を参照すること。

① 現地スタッフの職種

- ・医療職：外来医師、看護師、助産師、薬剤師、薬剤助手、検査技師、放射線技師、理学療法士等
- ・非医療職：通訳、門番、ガードマン、清掃員、技術要員助手、管理要員助手、運転手、調理師等

② ボランティアの確保

HNS の平常活動のあり方によっては、HNS ボランティアが災害対応を率いる場合もある。病院 ERU 活動においてボランティアを確保する場合は、ボランティア・マネジメントについて、できるかぎり HNS の管理体制・方法に従うこと。これは新たに赤十字ボランティアとして活動に加わった者に対しても同様であり、また状況が許せば ERU 活動終了後にできるかぎり、HNS の活動に引き続き携わってもらうよう、HNS の地元支部等につなげるようにする。